

済懇話会 紀伊国屋書店（発売）

・秦邦彦著『昭和史の謎を追う』文春文庫

・秦邦彦著『定められる日本現代史』PHP

研究所

・秦邦彦著『現代史の争点』文芸春秋

・秦邦彦著『現代史の対決』文芸春秋

・秦邦彦著『陰謀史観』新潮新書

・山本七平著『日本はなぜ敗れるのか』角川

書店

・別冊正論24「再認識『終戦』」（2015

年刊）

・『This is 読売』1998年10月号『東京裁判

50周年特大号 戦犯とは何だったのか』

・中立悠紀著『東京裁判観―占領下の日本国

民は東京裁判をどう見たか―』九州大学比較

社会文化研究33号（2013年刊）

（文責：榎本真己）

## 楓之典君乳母草子外伝

猫様詣―今戸神社―

中條 恵子 陸自85

都人もすなる寺社参りを乳母もせ

むとてかちより詣けり

暑気あつけの頃、猫様にお仕えする先達

でもあり、北の大地から寄席を樂し  
みに時折り上京する友と待ち合わ

せ、招き猫縁起で名高い今戸神社を  
参拝して参りました。

### 今戸神社

所在地：〒111-0024 東京都台東区今

戸1-5-22

○ 御由緒



後冷泉天皇の御世、康平6（10

63）年、奥羽鎮守府將軍伊豫守の

源頼義・義家親子が奥州の夷賊安部

貞任・宗任の討伐の折、鎌倉の鶴ヶ

岡と浅草今之津（現在の今戸）に京

都の石清水八幡を勧請したのが今戸

八幡としての始まりにございます。

白河天皇御世の永保元（1081）

年には、謀反を起こした清原武衡・

家衡討伐のために今之津を通過する

源義家が戦勝を祈願したとも伝えら

れます。昭和12（1937）年7月

には隣地に鎮座されていた白山神社

と合祀され、今戸神社と改称されま

した。



る伊弉諾・伊弉冉の二柱の神は、天神の命を受けて日本の国土を創成し、諸神を産み、山海や草木を生じたとされる男女の神です。古くから産霊の神、縁を結び生産の基盤を固める神として崇められてきました。

七福神の一神、福祿寿は白髪童顔の温和な容姿で年齢は数千年といわれ、福と禄と寿との三つの福徳を授ける福の神です。昭和12年から16年頃まで七福神巡拝が行われていましたが、戦時下に一時中止され、昭和52年に復活しています。浅草は江戸文化発祥の地、七福神巡りが流行したのは江戸時代からと伝えられています。

### ○ 丸メ猫と招き猫

今戸神社は、招き猫発祥の地の一つといわれています。

江戸時代の地誌などに残る丸メ猫の話をご存知でしょうか。浅草花川戸に住む老婆がよんどころなく飼う猫を手放しますが、夢枕にその猫が現れて『己の姿を人形にすれば福徳を授かる』と告げます。その猫の姿を今戸焼にして浅草寺境内で売ったところ、たちまち大評判になったというお話です。

江戸時代の地誌等に今戸八幡に関

する記述はありませんが、今戸焼との繋がりから招き猫発祥の地と称され、多くの招き猫が奉られるようになりました。多くの猫好きが参拝に訪れ、最近ではアジア圏をはじめとする外国からの参拝者も増えています。



### ○ 沖田総司の終焉の地

さほど広くない境内の一角に、『沖田総司終焉の地』と記した碑があり、今戸神社は、新選組沖田総司の終焉の地とも称されています。

結核を患っていた沖田を診ていた医師松本良順は、当時今戸神社を仮の住まいとしており、新撰組隊士永倉新八が『沖田は松本宅で死亡』と書き残しています。――現在では、『沖田総司は今戸八幡神社に間借りしていた松本良順により千駄ヶ谷の植木屋の柴田平五郎宅の納屋に匿われており、同地で死亡した』とするのが定説とのこと――

### ○ 乳母の吹き

猫様に引かれてお江戸浅草まで詣でてみれば：猫神様はおられませんでした。幕末の士『沖田総司終焉の地』の碑も拝見できました。乳母の里には『土方歳三最期の地』がごさいます。何かのご縁を感じつつ、楓之典君の待つ邸を目指して帰途に着いたのでございました。



創建以来戦乱兵火に度々みまわれ、大正12（1923）年9月の関東大震災、昭和20（1945）年3月の東京大空襲にも：現在の社殿は、被災・再建の歴史を経て、昭和46（1971）年に造営されたものです。

○ 御祭神  
應神天皇  
伊弉諾尊・伊弉冉尊  
福祿寿

應神天皇は武運長久と慈愛をこめて子を育てる大愛を御神徳としておられます。八幡信仰は、武運長久の靈験が一般的ですが、一方で、母が子を抱きかかえ慈愛をこめて子を育てる大愛も本願としているのです。

合祀された白山神社の御祭神であ